

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700175		
法人名	医療法人天心堂		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191番地2		
自己評価作成日	令和5年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年1月25日	外部評価確定日	令和6年2月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・理念にもあるように、利用者とのふれあいを大切に、いつも笑顔で生活して頂けるよう支援している。新型コロナウイルス感染症も5類になり面会の緩和を行い日常の状況や健康面のことなどについて安心して頂けるよう報告し、家族との信頼関係を大切にしている。又、ご家族参加型の行事を再開し、利用者様とご家族と一緒に過ごす機会を設け関係継続ができるよう力を入れている。</p> <p>・自立支援・重度化防止の観点からリハビリ専門職が定期的に来荘し、身体状況の評価、日常的に行える機能訓練についての介護職員へ指導する体制を構築している。</p> <p>・利用者の高齢化・介護の重度化に伴い、最後までさくら荘で過ごしたいと看取りの希望がある。その為、法人の医療スタッフとの連携を取り終の住処としての役割も担っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>隣接する場所に法人母体の病院があるため医療面での充実には自負もある。入居者全員のかかりつけ医であり、ハリーコールの体制も心強い。また介護記録等には家族とのやり取りまで記されるが、パソコン入力で管理されているため、職員は自由な閲覧ができ共有も図りやすい。介護の現場で口腔ケアが取り上げられて久しいが、事業所では栄養サポート委員会の言語聴覚士が定期的を訪れ、口腔内の状態把握や指導が行われている。誤嚥性肺炎の予防や認知症の進行を緩やかにする等々が挙げられており、重点を置いているのが窺える。また入居者には意思のまま自由に動いてもらいたいと話す様子には、相手を認め受け入れ、その人らしさを大切にすると謳った理念が浸透しているのが分かる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所では「地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム創り」を理念としている。毎日の朝礼で理念の唱和を行い職員が常にその意識を忘れずサービス提供できるようにしている。	当事業所では「地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム創り」を理念としている。毎日の朝礼で理念の唱和を行い職員が常にその意識を忘れずサービス提供できるようにしている。	法人が掲げる運営理念がある。その想いを踏まえ、開設当時の職員達が独自に作り上げた「さくら荘の理念」もあり現在も維持されている。常に立ち戻る基本であり、目に付く場所への掲示や唱和によって意識付けを図っている。入居者毎の性格を把握し、日々のケアの中では待つ姿勢を心掛け、話し方にも工夫をする様子には理念が活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、公民館掃除やクリーク清掃に参加。また、地域ボランティアの受け入れも積極的に行なっている。	自治会に加入し、公民館掃除やクリーク清掃に参加。また、地域ボランティアの受け入れも積極的に行なっている。	回覧板や地元に住む職員から細かい情報まで届いている。地域に暮らす者として、役割にも積極的に参加している。コロナ感染症が5類へと移行したことで、昨夏は法人主催の夏祭りも復活し、地域の人々を招くことができた。秋の文化祭も然りで交流は徐々に戻っている。散歩の途中で出会う近隣住民と挨拶を交わし、立ち話をする中で専門知識が活きてくることもある。日常的な見守り等でも協力を得られる関係はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学校児童の課外授業に協力し、小さいうちから認知症高齢者と自然に触れ合うことができるような環境を提供している。しかし現時点では感染症予防対策により行事が中止となっている。	地元小学校児童の課外授業に協力し、小さいうちから認知症高齢者と自然に触れ合うことができるような環境を提供している。しかし現時点では感染症予防対策により行事が中止となっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議では、入居者の状況や事業所の活動について報告している。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議では、入居者の状況や事業所の活動について報告している。	法人内の他事業所と合同の会議である。行政側は代理でも出席者を出し、地域役職者や第三者委員として依頼している方も参加している。家族の出席は高齢化もあり難しくなっているが、会議後には運営推進会議新聞として内容を全家族に配布している。事業所からの報告のみで終始するのではなく、双方向な意見交換の場となっていることはその新聞からも窺える。またメンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もみられ、当外部評価の成果質問にも「この会議を通して地域との繋がりが深まりが少しずつ増えている」と答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の現状を伝えている。その際に意見や情報交換等を行っている。	運営推進会議に参加して頂き事業所の現状を伝えている。その際に意見や情報交換等を行っている。	行政側への相談事はしやすく、質問等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。実直に対応してもらえる関係は築けている。最近の問い合わせでは、避難計画に関する件で得られた情報が、事業所向けに置き換えて活かす基となっている。また事業所は大きな法人の傘下であり、内部で解決できるだけのスキルや人材もあるが、行政側との繋がりは大切にしておき協働関係も維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待の勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を検討しながら日々取り組んでいる。	身体拘束、虐待の勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を検討しながら日々取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、年に複数回の研修は法人内外で受け、加えて事業所独自でも行っている。身体拘束をしないケアを目標とし現在その実施例はない。玄関に施錠はなく、職員には人数を数える習慣もあって、目配りや気配りによる安全で自由な暮らしが支援されている。仮に不適切なケアが見られた場合は、まず事情・理由を尋ねる、本人に考えさせる、内容によっては全体への問題提起となる流れとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の勉強会に参加し、虐待防止についての理解を深め、ケアを実践している。意識せずに行いがちな言葉の暴力については特に注意するように日々職員への周知を行っている。	内外の勉強会に参加し、虐待防止についての理解を深め、ケアを実践している。意識せずに行いがちな言葉の暴力については特に注意するように日々職員への周知を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間勉強会計画に組み込み、研修を実施するようにしている。	年間勉強会計画に組み込み、研修を実施するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様・ご家族に現状の問題や不安点を確認し説明している。解約理由としては死亡がほとんどであるが病院への転院時などは十分主治医と共に話し合いを行っている。また料金改定時などは、改定内容を明記した文書を送付し、説明・同意を得ている。	契約時に利用者様・ご家族に現状の問題や不安点を確認し説明している。解約理由としては死亡がほとんどであるが病院への転院時などは十分主治医と共に話し合いを行っている。また料金改定時などは、改定内容を明記した文書を送付し、説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを実施し、結果と回答を公表している。頂いた要望や意見についてはカンファレンス等で話し合い周知している。	毎年アンケートを実施し、結果と回答を公表している。頂いた要望や意見についてはカンファレンス等で話し合い周知している。	コロナ禍での面会規制は緩和され、オンライン面会の推奨もあり家族との接点は多い。タブレットを活用することで入居者の今の表情を見てもらうことも可能となり好評である。また各ユニットが季節毎に発行する「さくら新聞」「さくらだより」では、ふんだんに掲載された写真から日常の様子が垣間見られる。年3回予定される家族会では自由な発言を促すために職員を入れず、全てを家族に任せたい会を検討している。更に無記名による家族アンケートでは想いを汲み取ろうとしており、その結果は公表され、意見が出された場合は前向きに活かす姿勢も窺える。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、定期的なアンケートを実施している。	年1回、定期的なアンケートを実施している。	毎月の職員会議は概ね60分を要し、前半はユニット毎、後半は合同となる時間割である。会議をスムーズに進めるため内容を事前に周知しておく工夫もある。主にカンファレンスを行うが互いの経験を持ち寄る場でもあり、ケアに活かし合うこともある。日常に関わる提案等は会議を待つまでもなく、その時々で解決され、意見も言いやすい職場環境である。また管理者としても働きやすい職場であるよう配慮し、日頃から声を掛けコミュニケーションを図っている。定時での帰宅を促し、休暇取得にも応えている。法人は年一回の職員アンケートを行い、現場の声に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施し、個人面接を行いスキル評価を行っている。年度始めに部署・個人目標を立て、実践できるようサポートしている。	人事考課を年2回実施し、個人面接を行いスキル評価を行っている。年度始めに部署・個人目標を立て、実践できるようサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、部署勉強会・事業所勉強会を実施。参加状況に応じて加算される学習ポイント制度を導入。またeラーニングも取り入れ各自が自分のペースで勉強できる環境になっている。	毎月、部署勉強会・事業所勉強会を実施。参加状況に応じて加算される学習ポイント制度を導入。またeラーニングも取り入れ各自が自分のペースで勉強できる環境になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島・太良・嬉野地区のグループホーム12施設で交流会を開催し、職員の勉強会を行っている。感染症対策により入居者のレクリエーションは開催できていない。	鹿島・太良・嬉野地区のグループホーム12施設で交流会を開催し、職員の勉強会を行っている。感染症対策により入居者のレクリエーションは開催できていない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会に行き、本人と話をし、て要望や不安材料は何かを聞くようにしている。初回面談時の印象がのちの信頼関係構築に重要であると認識しており、対応に十分配慮しながら面談している。	入居前に面会に行き、本人と話をし、て要望や不安材料は何かを聞くようにしている。初回面談時の印象がのちの信頼関係構築に重要であると認識しており、対応に十分配慮しながら面談している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも入居前に面談を行い、入居までの経緯や問題点を聞いて、共感し、気持ちに寄り添えるよう努力している。利用者様と同様、初回面談での印象は重要であるため、十分配慮しながら面談している。	ご家族にも入居前に面談を行い、入居までの経緯や問題点を聞いて、共感し、気持ちに寄り添えるよう努力している。利用者様と同様、初回面談での印象は重要であるため、十分配慮しながら面談している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、今必要なサービスを見極め当事業所での対応が困難な場合は、本人・ご家族に説明・同意を得た上で、関係者と協議し、他サービスの紹介や調整を行うようにしている。	入居前の面談で、今必要なサービスを見極め当事業所での対応が困難な場合は、本人・ご家族に説明・同意を得た上で、関係者と協議し、他サービスの紹介や調整を行うようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の「できる能力」残存機能を把握した上で、その能力に応じた作業を一緒に行っている。	入居者様の「できる能力」残存機能を把握した上で、その能力に応じた作業を一緒に行っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様からのご家族に対する要望などがあれば伝えたり、直接電話をしていただいたり、できるだけ希望が叶うような働きかけをしている。	入居者様からのご家族に対する要望などがあれば伝えたり、直接電話をしていただいたり、できるだけ希望が叶うような働きかけをしている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。又、地域の行事に参加したり慰問を通じて地域の人との関係が途切れないよう努めている。	面会はいつでも来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。又、地域の行事に参加したり慰問を通じて地域の人との関係が途切れないよう努めている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネジャーからも話を聞くが、時には以前利用していたサービス事業所や病院のソーシャルワーカーからも情報を集めている。それらを基に具体的な支援が生まれ、盆正月の帰宅や行きつけの美容院へ通う方もある。電話の取次ぎはいつでも可能であり、ライン登録をした孫とオンライン面会を楽しんでいる方や家族との買い物も戻りつつある。入居者が大切にしてきた関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、なるべくホールで過ごして頂き、コミュニケーションの取次をしている。家事活動など一緒にして頂くような環境づくりをしている。	日中は、なるべくホールで過ごして頂き、コミュニケーションの取次をしている。家事活動など一緒にして頂くような環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のための契約終了後も、ご家族の状況に応じ、面会に継続的に行き、衣類の回収、洗濯等を行っている。	入院治療のための契約終了後も、ご家族の状況に応じ、面会に継続的に行き、衣類の回収、洗濯等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞いて、対応可能なことは対応するようにしている。意思表示が困難な方に関しては、日頃の生活状況・ご家族からの聞き取りにより判断している。	本人の希望を聞いて、対応可能なことは対応するようにしている。意思表示が困難な方に関しては、日頃の生活状況・ご家族からの聞き取りにより判断している。	入居者が想いを話してくれるのは一対一で相手をしている時に多い。居室を訪ねて話し相手や入浴中の寛いだひとときがそれである。お気に入りの職員を待つ方もいる。話をする時に心掛けているのはスキンシップや選択肢を用意した問い掛け方、何より急かすことなく待つ姿勢を大切にしている。発語の少ない方とは歌や本で気持ちをほぐしたり、手を動かすこともきっかけとしている。入居者から聞き取ったことは口頭や介護記録等に残すことで共有を図り、そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係などについて情報収集し把握に努めている。ご家族との良好な関係づくりに力を入れ、信頼関係が気付けた時点で本音などを聞き出している。	入居前に、ご家族や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係などについて情報収集し把握に努めている。ご家族との良好な関係づくりに力を入れ、信頼関係が気付けた時点で本音などを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット毎に職員を固定にし、顔なじみの関係づくりに努め、状態把握に努めている。またケースカンファレンスを月1回実施し、個々の状態を報告し共有している。	ユニット毎に職員を固定にし、顔なじみの関係づくりに努め、状態把握に努めている。またケースカンファレンスを月1回実施し、個々の状態を報告し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月、6ヶ月ごとに多職種で話し合いプランの見直しを行っている。家族や本人に希望を伺っても、なかなか具体的な希望がでないが日々の面会時や電話報告時に会話からくみ取り、希望があればプランに反映している。	毎月モニタリングを行い、3ヶ月、6ヶ月ごとに多職種で話し合いプランの見直しを行っている。家族や本人に希望を伺っても、なかなか具体的な希望がでないが日々の面会時や電話報告時に会話からくみ取り、希望があればプランに反映している。	ケアプランには3ヶ月毎、6ヶ月毎の設定期間があり、その間に変化があれば臨機応変な見直しもある。また入居して間もない頃は密に見直しを行う時期でもある。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。体力(残存能力)の維持を願う家族は多い。歳を重ねる毎に身体機能の低下は否めない状況にありながら、穏やかな日常が維持できているのは職員の日々のケアの積み重ねに他ならない。毎月のモニタリングにケアマネジャーや担当職員の他に法人の理学療法士が加わる点も特長である。日々の経過記録ではケアプランの実施状況も確認している。当外部評価の家族アンケートでは殆どの方が「ケアプランの説明を受け一緒に話し合っている」と答えている。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々の経過記録を入力し、プランの実行確認も行っている。業務日誌には情報伝達や家族との関わりを入力し共有している。	毎日、個々の経過記録を入力し、プランの実行確認も行っている。業務日誌には情報伝達や家族との関わりを入力し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向や現状に応じて適切なサービスが行われるよう多職種で取り組んでいる。	本人・家族の意向や現状に応じて適切なサービスが行われるよう多職種で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃からの地域ボランティア受け入れや、地域行事への参加を通して顔見知りの関係を作るようにしている。	日頃からの地域ボランティア受け入れや、地域行事への参加を通して顔見知りの関係を作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が当法人のかかりつけである。病院併設ということで選ばれているところも大きい。密に連携をとることで医療面が安心しているとの家族様の意見がある。	ほとんどの方が当法人のかかりつけである。病院併設ということで選ばれているところも大きい。密に連携をとることで医療面が安心しているとの家族様の意見がある。	全ての入居者が法人母体の病院をかかりつけとしている。元々、志田病院の患者だった方は病歴等も知っている安心感がある。入居後に変更した方は訪問診療や毎週の看護師によるチェック、また終末期等の説明を受け納得して希望している。隣接した場所に病院があることも医療面や健康面では心強い。他科受診が必要な場合は職員が付き添い、その結果は当日中に家族に電話連絡される。家族のみが同行する場合には、スムーズな診療となるよう日頃の様子を医師に伝える様式もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。2週間に1回の訪問診療と1週間に1回外来看護師が状態確認のために来荘し、体調面の管理をいただいている。また、体調不良時はその都度報告し、様子を覗きまわっている。そのためにも情報をこまめに提供している。	看護職員を配置している。2週間に1回の訪問診療と1週間に1回外来看護師が状態確認のために来荘し、体調面の管理をいただいている。また、体調不良時はその都度報告し、様子を覗きまわっている。そのためにも情報をこまめに提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い、日頃の状況を説明している。毎日、病院へ面会に行き状態の確認を行っている。入院中の衣類洗濯もさくら荘で行っている。	入院時は職員が付き添い、日頃の状況を説明している。毎日、病院へ面会に行き状態の確認を行っている。入院中の衣類洗濯もさくら荘で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族にはACP、看取りケアについて説明し希望を聞いている。その時期が来たら再度、家族、主治医、看護師、職員での話し合いの場を設け、看取りを希望された場合は連携をとりながら取り組んでいる。	入居時に家族にはACP、看取りケアについて説明し希望を聞いている。その時期が来たら再度、家族、主治医、看護師、職員での話し合いの場を設け、看取りを希望された場合は連携をとりながら取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。ACP(人生会議とも呼ばれる)で人生の最終段階で受ける医療やケア等について事前に話し合う取り組みもある。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし医師の同席もある。職員にはこれまでの経験と年2回の勉強会もあり、落ち着いて対応できる力量がある。エンゼルケアまでを流れとし、家族が希望すれば一緒に施すこともできる。また家族向けの冊子には徐々に低下していく状況等が記され、心構えの助けとなっている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し実施している。急変時は「ハリーコール」を行い、医師、看護師などの職員がかけつける体制になっている。	緊急時の対応マニュアルを作成し実施している。急変時は「ハリーコール」を行い、医師、看護師などの職員がかけつける体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は消防署の協力により年2回実施し、それ以外に水害・地震訓練も行っている。非常連絡網には地域の方の電話番号も記載して連絡が取れるようにしている。	火災避難訓練は消防署の協力により年2回実施し、それ以外に水害・地震訓練も行っている。非常連絡網には地域の方の電話番号も記載して連絡が取れるようにしている。	年2回の訓練は事業所独自に行い、屋間帯の実施で消防署の立ち合いもある。夜間想定では夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試み、隣接する法人施設から駆け付ける手筈も整っている。入居者も一緒に避難を体験し、職員は通報装置や消火器の使い方も承知している。避難場所が志田病院になることは家族にも周知済だが、ハザードマップでは浸水地域となっており状況をみながら垂直避難も考慮される。非常食や水、寒さを凌ぐ備えもある。一斉連絡網には第三者委員の登録があるものの、訓練日には近隣住民の参加も期待したい。また訓練後の反省点や気付きはその場で指摘があり、改善策があれば後日全員に周知される。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・倫理の勉強会を実施し、言葉遣いなどには十分注意している。月間目標にもあげて取り組んでいる。広報誌等に写真を使用する場合は承諾を得るようにしている。	接遇・倫理の勉強会を実施し、言葉遣いなどには十分注意している。月間目標にもあげて取り組んでいる。広報誌等に写真を使用する場合は承諾を得るようにしている。	事業所には「自分だったらどう思うか」「自分がされて嫌なことはしない」という軸がある。年2回、接遇を含めた勉強会も行っている。トイレや入浴の介助では最も配慮が必要で、ドアは閉める、タオル等の活用、また入居時には羞恥心への配慮として、ケアは同性がよいかと確認をしている。呼び名についても過去に家族の要望どおりの呼び方をした例があり、今後は何と呼ばれたいか尋ねてみることも検討している。更に、個人情報取り扱いに対する職員の意識は高く、日頃の業務上のやり取りでは声の大きさにも注意を払い、広報誌への写真掲載や居室の名札も承諾を得た方のみである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような声掛けを行い利用者様の意向を尊重するケアを行っている。また、希望を言えない利用者様にも必ず声掛けを行っている。	自己決定ができるような声掛けを行い利用者様の意向を尊重するケアを行っている。また、希望を言えない利用者様にも必ず声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族へ自宅で過ごされていた時の生活習慣を聞き、できる限りペースを崩さないようにしている。入浴なども本人へ希望を聞き、入りたくないと言われたら、日程を変更している。	ご家族へ自宅で過ごされていた時の生活習慣を聞き、できる限りペースを崩さないようにしている。入浴なども本人へ希望を聞き、入りたくないと言われたら、日程を変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには十分注意している。行事などの時には化粧などもしている。	身だしなみには十分注意している。行事などの時には化粧などもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の介護度が重度化しているため一緒に食事作り等ではできていない。皿洗い等、出来る部分をお願いして一緒に実施している。おやつレクなどでは、それぞれの能力に応じてできる部分をして頂いている。	入居者の介護度が重度化しているため一緒に食事作り等ではできていない。食事のつぎ分けや食事前のおしぼり配り等、出来る部分をお願いして一緒にしている。おやつレクなどでは、それぞれの能力に応じてできる部分をして頂いている。	食材を発注する業者があり献立や栄養価を任せている。調理は2階のキッチンを使用し、専門職員が2ユニット分を作る段取りである。入居者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な献立や食材には代替えもある。朝食はパンという個別の希望にも柔軟に答えている。全介助は一階のユニットに2名、他は出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助を最小限に止めたり、自助食器や声掛けによって促す方もある。食が細い方には栄養補助食品も提供している。また職員が手作りで用意する行事食(正月・クリスマスなど)もあり、日常的な同じテーブルでの食事は難しくなっているが、傍らで見守りながら食事が楽しみとなるよう努めている。誕生日は当日、または同月をまとめて行い、おやつの時間に皆で祝っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方に対しては管理栄養士等に相談し、補助食品の提供などを行っている。水分が少ない方はコーヒー牛乳など好みのものを提供したり、汁物を多めに提供したりしている。	食事摂取量が少ない方に対しては管理栄養士等に相談し、補助食品の提供などを行っている。水分が少ない方はコーヒー牛乳など好みのものを提供したり、汁物を多めに提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。歯磨きが出来ない方にはガーゼで清拭したりしている。定期的に栄養サポート委員会のラウンドがあり、口腔内の状態確認や口腔ケア指導が行われている。	毎食後行っている。歯磨きが出来ない方にはガーゼで清拭したりしている。定期的に栄養サポート委員会のラウンドがあり、口腔内の状態確認や口腔ケア指導が行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態に応じてオムツの種類を検討し対応している。また経過記録を活用し、個人の排泄パターンを予測しトイレへ誘導するようにしている。	利用者様の状態に応じてオムツの種類を検討し対応している。また経過記録を活用し、個人の排泄パターンを予測しトイレへ誘導するようにしている。	排泄に関して自立した方も複数名いるが、任せたままでなく、さり気なく見守っている。日中はトイレでの排泄が主である。チェック表から予測・誘導に努めた効果は、オムツ類の使用枚数減や軽いタイプへの変更などに表れている。入居後のケアにより費用負担の軽減へと繋がった例である。失禁があればすぐにパット類を使うのではなく、まず声掛けや誘導、そして見守る姿勢のケアが功を奏している。トイレ内は車いす利用でも十分な広さがあり、手すりや可動式ひじ掛けの設置が自立を促す補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホール内で行える運動を個別に行っている。また乳製品やココア等を摂取してもらうようにしている。排便チェックを行い、便秘が続く場合は、医師の指示に基づき下剤を服用している。	ホール内で行える運動を個別に行っている。また乳製品やココア等を摂取してもらうようにしている。排便チェックを行い、便秘が続く場合は、医師の指示に基づき下剤を服用している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を目標に入浴していただいている。介護度の重度化に伴い、リフト浴を設置している。希望があれば対応したり体調に合わせて、日程を変更している。	週3回を目標に入浴していただいている。介護度の重度化に伴い、リフト浴を設置している。希望があれば対応したり体調に合わせて、日程を変更している。	入浴は週3回を目安としているが、皮膚の状態や夏場などはこの限りではない。一人ずつゆっくりと寛いでもらう中で想いを話してくれることもある。柚子湯で季節を感じてもらったり、体調に合わせて清拭や足浴、シャワーも使い分けている。嫌がる方に無理強いはいしないが、長く続けば職員のテクニックも活かし誘導している。浴室の暖房設備はヒートショック対策となり、脱衣場脇にトイレがあることも使い勝手が良い。また一階のユニットにはリフト浴の設備があり、入居者には安全な入浴支援ができ、職員にとっては体への負担軽減となっている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せる見守りのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息を希望される方以外はホールで過ごしたり、ソファで休んで頂いている。眠そうにされているときは、居室へ誘導している。	居室での休息を希望される方以外はホールで過ごしたり、ソファで休んで頂いている。眠そうにされているときは、居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった場合は、医師・看護師・薬剤師等からの説明を受けている。また、処方薬の説明書にも目を通し注意事項など確認している。	内服薬の変更があった場合は、医師・看護師・薬剤師等からの説明を受けている。また、処方薬の説明書にも目を通し注意事項など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の手入れや趣味を活かした活動の実施、好きな食べ物の提供を行っている。天気の良い日には敷地内の散歩を多く取り入れ、気分転換が図れるよう工夫している。	畑の手入れや趣味を活かした活動の実施、好きな食べ物の提供を行っている。天気の良い日には敷地内の散歩を多く取り入れ、気分転換が図れるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行きたいなどの要望があれば敷地内の庭園や、事業所の近隣まで出かけている。	散歩や買い物に行きたいなどの要望があれば敷地内の庭園や、事業所の近隣まで出かけている。	入居者から外出の希望が出ることもあり、最近では地元の有名な神社へ初詣に出掛けている。コロナ感染症がら類へ移行したことで事業所の規制も緩和され、家族との買い物に出る方もある。車両を使う外出には法人に対し事前の届け出ルールもあるが、先の天気予報などを確認しながら予定を立てている。また周辺への散歩は日常的に支援され、車いす利用であっても同様である。職員は、外気浴が五感の刺激になることも理解している。玄関脇の桜の下にはベンチもあり、春には賑わう様子が想像される。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されている方はいらっしゃらない。	希望されている方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取り次ぎを行っている。タブレット端末を使ったオンライン面会等も実施している。	希望があれば電話の取り次ぎを行っている。タブレット端末を使ったオンライン面会等も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう花を飾ったり、クリスマスや正月など季節の飾り付けを行い雰囲気づくりをしている。居室は好みで飾ってもらっている。	季節感を感じられるよう花を飾ったり、クリスマスや正月など季節の飾り付けを行い雰囲気づくりをしている。居室は好みで飾ってもらっている。	リビングで最も目に付く壁は季節を感じてもらえる飾りつけの場所である。入居者の動線上に行動を妨げる物はない。車等の騒音は殆どなく、西日はレースカーテンで和らげている。畳コーナーは高さを利用した椅子代わりにもなっている。各々がそれぞれの場所に座り、テレビ番組では相撲やのど自慢が人気である。換気のために常時開けておく高窓があり、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。年一回は清掃業者によるワックス掛けやエアコン掃除もあるが、普段は職員が行い、手伝える入居者は少ない。トイレ等はきれいに掃除され嫌な臭気はない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ・畳などいくつか のエリアを設け、思い思いに過ごせ るようにしている。	テーブル・ソファ・畳などいくつか のエリアを設け、思い思いに過ごせ るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室は、ベッドとタンスのみ備え付 けており、他は使い慣れたものや好 みのものを持ってきてもらうようにし ている。	居室は、ベッドとタンスのみ備え付 けており、他は使い慣れたものや好 みのものを持ってきてもらうようにし ている。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の 制限はない。馴染みの物を活かし、仏壇 を持つ方もいて、居心地よく過ごしてもら えるよう支援している。また飾り棚付きの タンスが備えてあり、配置は本人と話しな がら決めている。ハンガーラックを置き、 自分で毎日の服選びをする方もある。天 気が良い日には寝具を干す手間も惜しま ない。家庭と同じである。家族が希望すれ ば居室への宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	事業所内はバリアフリーとなっている。 トイレのドアには「トイレ」と表示 するなど、入居者様に理解しやすい よう工夫している。	事業所内はバリアフリーとなってい る。トイレのドアには「トイレ」と表示 するなど、入居者様に理解しやすい よう工夫している。		



V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない